

ご利用案内

開館時間 10:00～17:00 (入館は16:30まで)
休 館 日 水曜日 (水曜日が祝日の場合は翌日が休館)
年未年始 (12/28～1/4)

観 覧 料	本館展示	特別展「ユニバーサル・ミュージアム——さわる“触”の大博覧会」※ 特別展「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」※
一 般	580 (490)円	880 (600)円
大学生	250 (200)円	450 (250)円
高校生以下	無料	無料

※本館展示もご覧になれます。

- ()は、20名以上の団体料金、大学等の授業でご利用の方、3ヵ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書)
- 特別展「ユニバーサル・ミュージアム」および「邂逅する写真たち」は20名以上の学校団体(大学)については、本館展示割引観覧料相当額(大学生200円)でご覧になれます。
- 障がい者手帳をお持ちの方は付添者1名とともに、無料で観覧できます。
- 大学生・一般の方は万博記念公園各ゲートで、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
- 高校生以下の方は万博記念公園各ゲート有人窓口で、みんぱくへ行くことをお申し出いただき、通行証をお受け取りください。
- 「国立民族学博物館友の会」会員の方は万博記念公園各ゲート有人窓口で、みんぱくへ行くことをお申し出いただき、通行証をお受け取りください。
- 万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。

ご来館のみなさまへ
新型コロナウイルス感染症の予防のため会期・イベント等を変更・中止する場合があります。事前にホームページでご確認ください。またオンライン予約でのご来館にご協力ください。



交通のご案内 ◎大阪・万博記念公園内
○大阪モノレール…「万博記念公園駅」 「公園東口駅」下車徒歩約15分
○バス…阪急茨木市駅・JR 茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
○乗用車…万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
○タクシー…万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてできます。

お問い合わせ先 TEL. 06-6876-2151 FAX.06-6875-0401

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
https://www.minpaku.ac.jp



本館展示

国立民族学博物館(みんぱく)は、世界の人びとの暮らしや文化にふれることができる世界最大級の民族学博物館です。世界各地の衣食住に関わる生活用具や、儀礼や信仰にもちいる道具などを展示しています。



アメリカ展示



ヨーロッパ展示



東南アジア展示



日本の文化展示

館内のご案内

探究ひろば 「リサーチデスク」「研究の現場から」「世界をさわる」の3つのコーナーをとおして、みんぱくの研究や展示をより詳しく知ることができます。

ビデオテーク 世界のさまざまな地域で暮らす人びとの生活や儀礼、芸能などを記録した番組を、自由に選んで視聴することができます。

みんぱく電子ガイド 展示物をみながら、映像と音声による解説が視聴できる、携帯型の展示解説装置を無料で貸し出しています。

みんぱく図書室(本館3階) 文化人類学・民族学関係の文献図書資料を所蔵しています。どなたでもご利用いただけます。
休室日: 日曜日、祝日、およびみんぱく休館日

ミュージアム・ショップ 世界各地の民芸品や文化人類学・民族学に関する書籍などを多彩に取り揃えています。TEL.06-6876-3112



ミュージアム・ショップ

森の洋食 グリルみんぱく 観覧の余韻に浸りながらゆっくりと本格的な洋食が楽しめます。
営業時間 11:00～16:30(ラストオーダー 16:00)
TEL.06-6310-0810



森の洋食 グリルみんぱく

国立民族学博物館友の会 家庭学術雑誌『季刊民族学』、友の会講演会、セミナーなどをおして多様な文化に関する情報を提供します。
お問い合わせ先: 公益財団法人千里文化財団 TEL.06-6877-8893

■みんぱくゼミナール 研究者が最新の研究成果をわかりやすく講演します
毎月第3土曜日13:30～15:00(開場13:00)
●場所:みんぱくインテリジェントホール(講堂) ●無料 ●要事前申込
※講師・演題・開催場所は都合により変更する場合があります

第514回 10・16土 特別展関連

ユニバーサル・ミュージアムとは何か——暗闇で「野生の勘」を取り戻せ
大石 徹(芦屋大学 教授) 黒澤 浩(南山大学 教授)
篠原 聡(東海大学 准教授) 広瀬浩二郎(国立民族学博物館 准教授)
特別展「ユニバーサル・ミュージアム」では、触覚の潜在力を引き出すために、会場を暗くしています。視覚情報を遮断することで、私たちは何を得的のでしょうか。各地の実践事例に基づき、「ユニバーサル」の真意を考えます。



高校生対象の彫刻メンテナンス体験会(東海大学にて、2019年8月撮影)

第515回 11・20土

産後三・七日間の変化——韓国の伝統慣習から産後ケア施設まで
諸 昭喜(国立民族学博物館 助教)
出産をめぐる儀礼や習慣は文化によって多様です。韓国では産後の母親と新生児に対してどのようなタブーや規範が存在し、産後の儀礼が存在したか、そして、現代の産後ケアまでご紹介します。



お産後の食事(ソウル・2016年撮影)

第516回 12・18土

アボリジニ・アートはどう描かれるか
平野智佳子(国立民族学博物館 助教)
先住民アートとして世界的に知られるアボリジニのアクリル絵画。そこには祖先から受け継がれた物語が描かれています。オーストラリアの辺境の土地に生きる人びとが分かち合い、助け合いながら色鮮やかな絵画を生み出していく様をご紹介します。



中央砂漠で絵を描くアボリジニ女性たち

第517回 1・15土

大規模災害の経験を伝える——遺構・記念碑・語り部・博物館の役割
林 勲男(国立民族学博物館 教授)
東日本大震災発生以降、遺構・記念碑・語り部・博物館は、災害やそれからの教訓を伝えるものとして以前にもましてクローズアップされるようになりました。その役割や課題について具体的にお話しします。



「壁日記」(レイジアナ州立博物館の展示から)

第518回 2・19土

遙かなる山々——アンデス文明探求40年の軌跡
関 雄二(国立民族学博物館 教授)
40年以上におよぶ南米アンデス文明の遺跡の調査をつづじて、いったいなにを明らかにしてきたのか、そしてこれから何を解明しようとしているかを論じます。



ペルー北高地パコパンバ遺跡(写真: Heinz Plenge)

第519回 3・19土 特別展関連

ドキュメンタリー写真家
インジナージが見た現代モンゴル——インジナージ×港千尋×川瀬慈
インジナージ(写真家) 港 千尋(多摩美術大学 教授)
川瀬 慈(国立民族学博物館 准教授) 島村一平(国立民族学博物館 准教授)
本企画では、モンゴル人ドキュメンタリー写真家インジナージ氏を招聘し、スライドショーをおこないます。また研究者とのトークショーをおこなうことで写真で自己表象することの意味や他者表象との違いなどを考えます。



身長を計る



■特別展 **9・2木～11・30火** ●特別展示館

ユニバーサル・ミュージアム——さわる!「触」の大博覧会

さわって体感できるアート作品が大集合! 本展では「歴史にさわる」「風景にさわる」「音にさわる」などのテーマのもと、さまざまな素材と手法を用いて、「触」の可能性を追求します。展示場に足を運び、手を動かす。来館者一人一人の身体から「ユニバーサル・ミュージアム(誰もが楽しめる博物館)」が始まります。

関連イベント

みんぱく映画会	9・23(木・祝)	世界の感触を取り戻せ! ——目の見えない者は、目に見えない物を知っている
	11・7(日)	上映会そして瞽女はいなくなった ——ドキュメンタリーで辿る盲目の女性旅芸人の実像
みんぱくゼミナール	9・18(土)	健常者とは誰か——琵琶なし芳ーの話
	10・16(土)	ユニバーサル・ミュージアムとは何か ——暗闇で「野生の勘」を取り戻せ
ウィークエンド・サロン 11・21(日) 11・28(日)		
研究公演	11・13(土)	身体で聴く「土の音」——触れて打つ、揺らして揺げる
	9・11(土)	Love Stone Project-UM(ごっこつ編)
ワークショップ	9・19(日)	こころのかたち、きもちのかたまり
	10・3(日)	Love Stone Project-UM(ざらざら編)
	10・31(日)	「さわる」をデザインする——ポップアップ本の魅せ方
	11・3(水・祝)	Love Stone Project-UM(つるつる編)
	11・14(日)	音にさわる——地球の鳴らし方
	11・20(土)	感性を開いて、見えないものを見つめる
	その他、タッチツアーやギャラリートークを予定しています。	



■日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展 **2022 3・17木～5・31火**

邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今 ●特別展示館

本展は、100年前のモンゴルと現在のモンゴルが時空を越えて本館で出会う、体験型の「写真展」です。外国の探検家たちが写した100年前のウランバートルは、大活仏の座する宗教都市の姿でした。一方、現代の首都の素顔を気鋭のモンゴル人写真家が映し出します。大草原と遊牧民とは異なるもう一つのモンゴルとの出会いです。

関連イベント

みんぱくゼミナール	3・19(土)	ドキュメンタリー写真家 インジナASHが見た現代モンゴル
その他、映画会や研究公演などを予定しています。		



2021	10							11						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
					1	2			1	2	3	4	5	6
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30					
31														

2022	12							1						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3	5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31		26	27	28	29	30	31		

2022	1							2						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
						1	2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29	
30	31						30	31						

■企画展 **10・28木～2022 1・25火** ●本館企画展示場

躍動するインド世界の布

インド世界の布は、場をくぎり、人をつなぎ、神と人の媒介となり、政治をうごかし、グローバル経済をうみだす。このように躍動する布の現場に光を当て、本企画展ではインド社会をつくりだしている人びとの営みを多彩な布とともに紹介します。

関連イベント

クロストーク	11・13(土)	布と空間デザインーインドの躍動感を伝える
●13:30～15:00 ●オンライン(ライブ配信) ●定員:30名 ●要事前申込(先着順) 展示設計GENETOと企画展メンバーによる展示づくりの舞台裏を紹介します。		
ウィークエンド・サロン	11・7(日)	12・5(日)
	1・9(日)	1・16(日)



■研究公演

身体で聴く「土の音」——触れて打つ、揺らして揺げる

11・13土 13:30～15:15(開場13:00)

陶器の音具を叩いたり、転がしたりする音が、空気を振動させます。その波動が会場内から世界全体へ広がっていく感触を体感しましょう。

絆——人をつなぐ太鼓

3・20日 14:00～16:30(開場13:30)<予定>
「和太鼓 絆」による演奏をつうじて、異なる背景をもつ人びとが、違いを違いとして認め合い、楽しみながら学び合う社会をつくる可能性をさぐります。



2	3							3	4						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
		1	2	3	4	5			1	2	3	4	5		
6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12		
13	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18	19		
20	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25	26		
27	28						27	28	29	30	31				
— 特別展 — 企画展 — 友の会講演会 — みんぱくウィークエンド・サロン — 休館日															

■みんぱく映画会 ●要事前申込(先着順)

世界の感触を取り戻せ!——目の見えない者は、目に見えない物を知っている

9・23木・祝 13:00～16:20(開場12:30)

「最後の瞽女」と称される小林ハルの生涯を描いた映画をつうじて、瞽女文化の意義を考えます。後半には瞽女唄の生演奏も聴けます。



みんぱく映画会関連企画 上映会

そして瞽女はいなくなった——ドキュメンタリーで辿る盲目の女性旅芸人の実像

11・7日 11:00～13:00(開場10:30)

1970年代に制作された3本のドキュメンタリー映像をみながら、多様で個性的な瞽女が活躍していた背景を探ります。

Ainu | ひと

3・26土 13:30～16:00(開場13:00)

昭和初期に生まれ、時代の過渡期を生きた4人の古老。その生き様とアイヌ文化伝承の今を伝えるドキュメンタリー。監督来場予定。



みんぱく映像民族誌シアター 13:30～16:00(開場13:00)

1・22土「土と火と水の葬送」 1・29土「アシェンダ!」

2・6日「王の祭り」 2・23水・祝「インドの染色職人カトリー」

本館製作のDVD「みんぱく映像民族誌」シリーズから次の作品を劇場シアターセブン(大阪・十三)で上映し、監督者のトークもおこないます。オンラインでもご参加いただけます。



みんぱくワールドシネマ——映像から考える〈人類の未来〉

「テルアビブ・オン・ファイア」

2・12土 13:30～16:10(開場13:00)

無気力なニートのパレスチナ人青年を主人公に、文化的に依存しあうパレスチナとイスラエルの現状を痛烈に皮肉ったブラック・コメディ。



■公開講演会

●無料 ●要事前申込(先着順)

流動化する家族のかたち——少子高齢社会を文化人類学から考える

11・12金 18:30～20:40(開場17:30)<予定>

●場所:日経ホール(東京) ●定員:300名

ヨーロッパの農村や南アジアの都市で、少子化や高齢化に直面している家族のようすをお話しし、現代家族のかたちが流動化しつつあることについて考えます。



イメージの脈動にふれる〈仮〉

3・25金 ●場所:オーパルホール<予定>

■みんぱくウィークエンド・サロン——研究者と話そう

●日曜日開催 14:30～(30～60分)(研究公演、映画会等のイベント実施日を除く)

●場所:第5セミナー室他 ●要展示観覧券 ●申込不要

研究者が展示や研究についてお話しします。

展示や催しの最新情報は、ホームページをご覧ください。

表紙: タッサー套用糸繰り具(右:生糸用、左:生皮用)